



ジョンソン大統領の不人気は、もはやニュースにさえならないらしい。ベトナム政策の支持率三十一%。「偉大なる社会」も皮肉な笑いなしには語られなくなったという。そんな。苦悩する「大統領から片時も離れず、心からの忠誠を黒い瞳とやさしい鼻声で示している雑種のオス犬がいて、名をユキという。

去年の秋、テキサス州オースティンのカソリン・スタンドに捨てられていたのを、大統領の次女ルーシー・ニュージエント夫人に拾われたのがツキの始まり。雪のように白いので日本にいたことのある護衛官がユキと命名した。今年の夏、ニュージエント夫妻はバハマ諸島で休暇を楽しんだが、その間息子子のパトリック・リンドンちゃんとユキは、ホワイトハウスに預けられた。秋が来たが、「大統領のお気に入り」の地位を獲得し、大統領の写真が新聞のトップを飾る時必ず寄りそっている大スターのユキは、もはや野良犬に転落する気づかいはない。

ホワイトハウスには、ほかに血統正しい四匹のビーグル犬とコリーがいる。新聞係は「大統領はユキをえこひいきしているわけではなく、六匹のどれをも可愛がっておられます」と、「犬界」の世論にまで気を使う低姿勢ぶり。しかし、大統領がただひたすらちぎれんばかりにシツポを振っているこの小犬に、いちばん気を許し、いじらしく思っていることは誰の目にも明らかだ。

ガソリン・スタンドからホワイトハウスまで――まさに、丸太小屋から白聖館まで」と言い伝えられた「アメリカ民主主義」なるものを体現したユキ。いくらかツヤを増した白い毛なみをなびかせて、今日もホワイトハウスのローズ・ガーデンに登場する。常に最愛の大統領から少しでも離れまいと、あたりに目をくばりながら――